

2020年1月17日
公益財団法人イオン環境財団
東京大学未来ビジョン研究センター
フューチャー・アース

第4回「イオン未来の地球フォーラム」開催

いま次世代と語りたい未来のこと —海の環境と資源を守る—

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）、東京大学未来ビジョン研究センター（センター長 藤原 帰一）並びに持続可能な地球社会の実現を目指す国際研究プラットフォームであるフューチャー・アース（事務局長 エイミー リュアーズ）は、2月1日（土）、東京大学にて第4回「イオン未来の地球フォーラム」を開催します。

本フォーラムは、全5回の開催計画で地球環境の変化やそれに伴って生じる問題の解決方法を考え、実行策を議論するものです。4回目となる今回は、フューチャー・アースが設定した課題の中から“海洋”を取り上げ「海の環境と資源を守る」をテーマとして専門家による基調講演やパネルディスカッションを実施します。パネルディスカッションでは、来場者も交えた対話型議論と、高校生・大学生による研究成果発表の2部構成とし、世代や立場を越えて情報や意見交換を行うことで議論を深めます。

かけがえのない美しい地球を次世代の子どもたちへ引き継ぐため、今後も三者は連携して環境教育をはじめとした様々な活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日時	2020年2月1日（土）13:00～17:30		
場所	東京大学 安田講堂（東京都文京区本郷7-3-1）		
主催	公益財団法人イオン環境財団、東京大学未来ビジョン研究センター、フューチャー・アース		
後援	外務省、文部科学省、農林水産省、環境省、総合地球環境学研究所、国立環境研究所、ESD活動支援センター、地球環境戦略研究機関（IGES）、日本学術会議、フューチャー・アース日本委員会		
主な出席者	東京大学 総長	五神 真	
	東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授	武内 和彦	
	公益財団法人イオン環境財団 理事	岡田 元也	
募集人数	1,000名		

基調講演1 「変わりゆく海洋環境と生態系と物質循環：その関係性の謎」
海洋研究開発機構地球表層システム研究センター センター長
第60次南極地域観測隊 副隊長および夏隊長 原田 尚美

基調講演2 「海の魚と川の魚の不思議」
東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻 教授 金子 豊二

ゲストトーク 「海とわたし」
MSCアンバサダー、芸人（ココリコ） 田中 直樹
埼玉県環境科学国際センター総長、東京大学名誉教授 植松 光夫

パネルディスカッション

第1部 【対話型パネルディスカッション】モデレーター：牧野 光琢
東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター 国際学術分野 教授 牧野 光琢
(パネリスト) 海洋研究開発機構地球表層システム研究センター センター長 原田 尚美
九州大学応用力学研究所 大気海洋環境研究センター 海洋力学分野 教授 磯辺 篤彦
京都大学学際融合教育研究推進センター 森里海連携学教育研究ユニット 特定研究員 法理 樹里
東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻 助教 黒木 真理
イオン株式会社 環境・社会貢献部 部長 鈴木 隆博

第2部 【高校生・大学生による研究成果発表】アドバイザー：植松 光夫
お茶の水女子大学附属高等学校・同校卒業生
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 (敬称略)

【ご参考】

【イオン未来の地球フォーラム】

2017年2月25日に、第1回「イオン未来の地球フォーラム」を、東京大学武田ホールにて「地球と人の健康」をテーマに開催しました。第2回は、2018年1月20日「持続可能な消費と生産」をテーマに、第3回は、2019年2月2日「自然の恵み」をテーマに東京大学安田講堂にて開催しました。

※第4回「イオン未来の地球フォーラム」のURL

<https://aeon-futureearth2020.net/>



第3回 イオン未来の地球フォーラム

【東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）】

東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）は、2019年4月、政策ビジョン研究センター（PARI）と国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）の両部局が発展的に統合する形で設置されました。未来社会協創推進本部（Future Society Initiative/FSI）は、持続可能な開発目標（SDGs）に対する東京大学の取り組みの中核的組織として位置付けられます。

IFIは、持続可能な未来社会を創造するために、未来社会の諸課題に関する政策・社会提言ならびにそのための社会連携研究を行います。また未来社会に関連する大学の知見を統合する国際ネットワーク・ハブおよび産官学民との協創のプラットフォームとしての役割を果たし、研究に基づいた未来社会を実現する選択を示すとともに、それを担う人材の育成にも貢献します。

※IFIホームページ <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/>

【フューチャー・アース（Future Earth）】

フューチャー・アースは、2015年に設立された、持続可能な地球社会の実現を目指す国際協働研究プログラムです。「人類が持続可能で公平な地球社会で繁栄する」というビジョンの実現に向け、研究とイノベーションを通して、世界中が持続可能な社会へと転換していく流れを加速させることをミッションとしています。海洋や大気、生物多様性、リスク、都市、健康などの研究やSDGsへの科学的貢献において、世界の先駆的な研究拠点と社会の実務者が一つのネットワークとなって協働しています。

※フューチャー・アース日本語ホームページ <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/units/futureearth/>

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立され、本年30周年を迎えます。環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。特に、持続可能な社会の実現のため、国内外の主要大学・各国行政・学術研究機関と連携し「環境教育」を強化しています。

※公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

■アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2019年は、「持続可能な平和のため」をテーマに王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）、フィリピン大学（フィリピン）の10か国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間にカンボジア・プノンペンとシエムリアップで開催しました。



第8回ASEP開講式（王立プノンペン大学）

■パートナーシップ：一般財団法人リモート・センシング技術センターとの連携協定

当財団は、2019年7月23日、一般財団法人リモート・センシング技術センター（理事長池田 要）と、持続可能な地域づくりの実現に向け、リモート・センシング技術の活用に関し連携協定を締結しました。リモート・センシング技術による地球規模のグローバルな視点で得た過去及び現在の地表面の情報により、森や地域の状態を効果的に調べ、植樹候補地の選定に必要な情報や、植樹前後の森林の状態を客観的に把握します。これまでイオン環境財団が実施してきた植樹等の森林管理活動を、より効果的に行うことが可能となります。

また教育の場においては、リモート・センシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化、大気汚染などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育も実施します。両者は、本協定を機に、次代を担う子どもたちに持続可能な地域と豊かな自然を引き継ぐため、連携して取り組んでまいります。

【イオンと東京大学の取り組み】

■給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2006年より、アジア各国の大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度「イオン スカラシップ」を実施しています。経済的支援の他、日本で学ぶ奨学生を対象としたセミナーの開催やボランティア活動への参加機会の提供などを行い、学生の皆さまの成長を支援しています。日本をはじめ中国、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマーの計7カ国37大学と提携し2019年12月末までにのべ6,915名の学生に奨学金を付与しています。東京大学には同制度の開始当初から給付しています。

■「アジアユースリーダーズ」

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、アジア各国の若者たちが一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャーの後、ディスカッションを行うプログラム「アジアユースリーダーズ」を実施しています。異なるバックグラウンドを持つ、インドネシア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア6カ国の学生たちが、英語を共通言語として議論を重ね、問題への解決策を模索し、グローバル感覚や互いの価値観を認め合う姿勢を養います。2010年にスタートした同プログラムは、2016年まで大学生も対象としており、東京大学の学生がのべ11名参加しました。

※2017年に高校生を対象とするプログラムに改訂し、2019年よりカンボジア、ミャンマー、ラオスの3カ国が新たに加わりました。

■「東京大学^{しよくもん} 稷門賞」受賞

イオン株式会社、および公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2016年10月、「東京大学稷門賞」を受賞しました。同賞は、ボランティア活動及び援助等により、同大学の研究活動の発展に大きく貢献した個人・法人・団体に贈呈されるものです。東京大学大学院農学生命科学研究科と協力し、民間レベルでの植物病対策強化と農産物の生産性向上を実現するため、小売業で初めて同研究科の「植物医科学講座」に寄付を行ったことが評価されました。イオンはイオンワンパーセントクラブを通じて同講座に対し、2011年度から2013年度の3年間にわたり総額9,000万円を寄付しました。



2016年10月東京大学稷門賞授賞式